

「特殊教育、専門免許統合の記事に思う」へのコメント

「『特殊教育、専門免許統合』の記事に思う（雑学バックナンバ - マスコミ等コメント関係（ ）2005. 5.16.）」に、教育現場の当事者である教師の方々からコメントをいただけなかったのが少々残念ですが、いくつかコメントをいただきましたので、参考までにお目通しください。

どうも何でも専門家をつくりたいようですね。

「特別支援学校教諭免許状」？ 免許を持っていればいいんじゃないですね。

一般の免許を持った先生であろうと構わないと思います。その先生が目の前のこどもをどうしようか迷い勉強し、専門の免許状を持った先生より専門家になることはいくらでもあります。

ただ、養護学校に配置されて、私は素人でこれから勉強しますというのはいただけないですね。どうも、そういう言い方をしがちなんですが。

配置する前、あるいは、した当初、教育庁あるいは学校側で研修あるいは再教育のプログラムを作る必要があります。特殊教育の免許を持った先生に対しても同様です。

まあ、医者もそうした卒業研修がある期間毎に定期的にされていない、そうした研修を義務付けて、それを条件とした免許更新制度でない。

個人の努力だけに任されています。

専門職となれば、勉強することは当然ですが、個人的努力だけでは、難しい面もあります。

免許状の種類を変えたり、取得に必要な単位数を増やしたりするだけで子どもさんと真摯に向き合って係わろうとする人を養成できるなら苦労しないですよ。

むしろ免許状をもっていなければ子どもさんと「専門的」に係わることができないような感じになって、障害があるといわれる方々をよりいっそう特別な存在に仕立て上げてしまい、係わり手のあり方が重要なんだという視点がいっそう薄れてしまわないかと危惧します。

ただ一方で、「やる気」のない先生が特殊教育諸学校に赴任させられている状況を見るにつけては、特殊教育諸学校の教員採用枠をしっかりと設けて障害児教育への「希望」をもって教員を目指す人の採用を進めることは、トータルとしては、若干であっても教員のレベルの底上げにはなるかなとも思ってますが。

私も、この専門免許の統合に関してはよく講義などでも耳にしていました。

最初にそれを聞いたときには、自分の必要に応じて各特殊教育学校教員免許しか取ることができない自分たちが損しているような気分になったのも事実です。

しかしながら、よくよく考えてみれば、その分、教員養成大学で学ぶ内容も浅く広がってしまうのかなとも思いました。現時点でも特殊教育に関する免許所持教員が少ないこともよく聞きますが、免許を持っていればその分、知識も得ていることになるので必要性はあると思います。

しかし、その知識を行動に移すこと、自分の知識の範囲では対応しきれないことでも工夫をこらし、その子どもや父母に寄り添って一緒にサポートする力というのも同じくらい、いや、特殊教育に関する免許所持の先生が少ないからこそ、その免許を持つことよりも今は必要なことかもしれないとも思います。

実際、（注：ボランティア活動先）で、私が大学1年のときから係わっていた ADHD の女の子は、普通クラスに在籍しているものの授業についていけなかったり、よく会話をしていてもかみ合わなかったり、周りの子よりも行動するのが遅かったりしてクラスの子達から仲間はずれにされていました。

彼女と出会ってから、週に1回1時間、学習支援という形で会っていましたが、彼女の学校内での現状を知った上で、勉強のサポートをすることはもちろんのことですが、必ず20～30分位二人でお話をする時間を設けました。

例え、話のつじつまがあってなくても、また、話すのに時間がかかっても、できるだけ彼女の言葉で表現してもらい、それに共感したり「頑張ったね」「すごい」などと声をかけていました。

最初は話も一方的に彼女が話し、私が聞く形で、話題もポンポン飛んでいましたが、次第に私にも質問をしてくれ、それを聞いてくれ、共感してくれたり、一つの話題でも二人で十分会話を楽しむことができるようになりました。

本当に子どもが成長する瞬間を見ることができて幸せだと思います。しかも、この間、その子の口から「（注：学生の名）リーダーと同じ中学校（私は中学校が私立だったので）でなら、私も勉強頑張れるよ！」という言葉が出たときには感動を覚えたし、教師という仕事がいかに自分の生き方が子どもたちに伝わる職業なのかも少し分かりました。

私はまだまだ未熟で分からないことやこれから壁にぶち当たることもあるかもしれませんが、「免許」という肩書き以上に動ける教師になりたいと思いました。

（2005年5月28日 記）